

## 【目次】

### イントロダクション 社会科学という視点からウェブ調査をみる

- 1 急速に普及する「ウェブ調査」／2 社会科学と「一般化可能性」／3 「調査の技術」という課題
- 4 ウェブ調査の技術は発展途上

### 第1章 ウェブ調査のアウトライン

- 1 三つのウェブ調査／2 ウェブ調査の経費／3 「職業的回答者」という問題／4 クレーム処理の回避／
- 5 ウェブ調査のアプリケーション／6 回収後の作業

### 第2章 科学論とウェブ調査

- 1 科学と科学的思考／2 科学的に考えることの難しさ／3 因果関係のとらえ方／
- 4 社会科学のデータに求められる要件／5 標本誤差と非標本誤差／6 ランダムな誤差と体系的な誤差／
- 7 調査が「うまい」人、「へたな」人

### 第3章 標本の構成

- 1 母集団推定／2 「単純無作為抽出」の難しさ／3 網羅誤差——旧来的な調査法の場合／
- 4 網羅誤差——ウェブ調査の場合／5 ウェブ調査の標本抽出台帳／6 割り当て抽出／
- 7 標本抽出型ウェブ調査の回答率／8 二群比較／9 無作為割付／10 交絡要因／11 「すでに存在する差異」／
- 12 二群比較におけるウェブ調査のメリット／13 回答が信用できるか？／14 最小限化

### 第4章 測定のしかた

- 1 4つの尺度／2 尺度の置き換え／3 回答の形式／4 合計得点尺度の構成／5 質問項目の並べ方／
- 6 ウェブ調査に特有な測定の問題とその対処

### 第5章 実践

- 1 回答者の自発的な協力を引き出す／2 依頼状の作成／3 質問項目の並べ方／4 質問文の作り方／
- 5 Google Formsで回答画面を作成するときの留意点／6 回答のパターンとその設定の仕方／7 回答分岐／
- 8 実査前のチェック／9 Formsのデータファイルの変換作業

### 第6章 セルフ型ウェブ調査の実装

- 1 セルフ型ウェブ調査とは／2 ウェブ調査の実装環境／
- 3 ウェブ調査のためのQRコード、ユーザID／パスワードの発行／4 画面設計／
- 5 ウェブ調査の実装におけるセキュリティ問題／6 データベースの構造とセキュリティ／7 分岐質問の実装／
- 8 実装に関するまとめ／

コラム① 調査票？ 質問紙？ アンケート用紙？

コラム② 帰納と演繹

コラム③ 不注意回答者？ 不正回答者？

### ■採用見本のご請求は

以下のURLか右のQRコードより、採用見本の請求フォームよりご請求ください。

<https://business.form-mailer.jp/fms/8e4a3f4c186669>



慶應義塾大学出版会 <http://www.keio-up.co.jp/>

〒108-8346 東京都港区三田 2-19-30 TEL 03-3451-3584 / FAX 03-3451-3122

お問い合わせ : [text@keio-up.co.jp](mailto:text@keio-up.co.jp)

大学生のための

# ウェブ調査



—社会科学からみた設計と実装—

A5判並製／176頁 ISBN : 978-4-7664-3012-7 2025年3月刊行

定価2,750円（本体2,500円）



ウェブ調査の全体像、測定誤差についての考え方、Google Formsを使っての回答画面作成、そして「セルフ型ウェブ調査」の実装の初歩までを網羅。はじめてウェブ調査を行う人に必要な知識と考え方を伝える一冊。

- ・レポート、論文に使えるウェブ調査の基本知識を網羅。
- ・学生が誤りがちな注意点をフォロー。
- ・Google Form 等、具体的なアプリの使用法も解説。

慶應義塾大学出版会

吉村治正  
増田真也  
正司哲朗

## 【ページ見本①】

具体的な設問例を提示し、よい設問と悪い設問の違いをわかりやすく解説。

問：「育児や介護、家事などに費やす時間を男女間でバランスのとれたものとし、職業生活における女性の活躍を更に推進するためには、特にどのような支援が必要だと思いますか」

- ・長時間労働慣行の是正やテレワークの推進など、育児や介護、家事などに用いることができる時間を増やすための勤務環境の整備
- ・育児や介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事との両立を支援するための施策の整備
- ・保育施設や介護施設の整備など、育児や介護をサポートする設備やサービスの整備

これが回答に困るというのはすぐにわかると思う。つまり3つの選択肢の違いがわからない。特に最初の2つの内容はまったく同じに見える。おそらく、この質問を作成した担当者は、このタイミングでなにか具体的な政策案が複数提案されていて、そのどれが国民の支持を得やすいかを真剣に考えていたのだろう。だが、回答を求められている人は、その政策案の詳細を知らない。どの政策が誰を対象としていて誰が対象から外れるか、実際にどこに行ったらどのような支援が受けられるのか、またそれを受けるためにどのような手続きをする必要があるのかなど、具体的なことが全くわからない。その状態でどれかを選べと言われても、回答に困る。ほとんどの回答者は「すべて大切」と答えたくなるはずである。これは、選択肢が相互に排他的でない状態、選択肢同士の重複がある例である。

もう1つ内閣府世論調査から事例をあげる。同じく2022年11月に実施された「自衛隊・防衛問題に関する世論調査」には次のような質問がある。

第4章 測定のしかた 77

## 【ページ見本②】

ウェブ調査にかかる素朴な疑問に答えるコラムを掲載。

コラム ③

### 不注意回答者？ 不正回答者？

正確な情報を回答しない人のことを「不注意回答者」(inattentive respondent)と呼ぶか「不正回答者」(fraudulent respondent)と呼ぶかというは、実は大きな問題である。「不注意回答者」という場合、回答者には悪意がなく、なんらかの理由で注意力が一時的に低下し正確な回答ができなかつたとみなす。これに対して「不正回答者」というのは、正確な回答をする気が最初からないとみなしていることになる。つまり、この2つの言葉の違いは、それを用いる研究者が調査対象者をどのように理解しているかを如実に表している。

ウェブ調査が出現する以前から訪問面接・郵送調査あるいは実験室での実験に携わってきた研究者は、「不注意回答者」という言葉を用いることが多い。彼らは、学生のころに先生の手伝いで調査員をやらされたり、調査票を抱えて通行人に声をかけて協力を求めたりと、調査対象者と直接対面した経験を多かれ少なかれ持っている。そして、実際に調査対象者と対面し目の前で答えている様子を見たことのある人は、回答することがどれほど大変なことなのか、また協力してくれるという申し出がどれほどありがたいことかを痛感している。こうした経験を持つ人は、回答者がよこしまな意図を持っているとは考えない。回答者は回答しようとする意志を持っている、だがそれでも正確な情報の提供につながらるのはなぜなのか、と考える。

これに対して、ビジネスとして急成長してきた登録モニターモードウェブ調査の事業者は、「不正回答者」という言葉を好むようである。ウェブ調査をビジネスとしてみると、回答とは謝礼あるいは報酬を対価として情報を提供する行為であり、報酬を受

第4章 測定のしかた 97

## 【ページ見本③】

Google Formの実際の設定画面を掲載しながら、表示形式の長所・短所も紹介。

### (4)選択式（グリッド）、チェックボックス（グリッド）

評定法で、評定段階となる選択肢が同じ複数の質問項目を、1画面に表示する場合に用いられる。表形式になっており、先頭行に選択肢のラベルが記されている。マトリックス式と呼ばれることもある。グリッド形式は、ウェブ調査の以前から、特に郵送法でリッカート尺度の質問をするときによく用いられてきた。そのメリットは、見た目がきれいでたくさんの質問を1つにまとめられるというだけでなく、同じ内容に関する質問であることが回答者に伝わりやすく、そのために回答者にとって負担が少なく感じられることがある（図5-2）。ただしデメリットもあり、回答者から見ると同じ内容の質問であると予想がつけやすくなるため、全部同じところに回答（ストレートライニング）するなど最小限化が起きやすいといわれる。

また、もう1つのデメリットとして、回答デバイスによっては見にくくなるという難点がある。このあたりはウェブ調査に特有な問題だが、PCを使って回答している場合、PCの画面は横に長いので横幅の広いグ

5年前と今とを比べて、次にあげることはよくなってきたと思いますか、それとも悪くなってきたと思いますか。						
	かなりよくなつた	よくなつた	少しよくなつた	変わらなかつた	少し悪くなつた	悪くなつた
日本の政治	<input type="radio"/>					
日本の経済	<input type="radio"/>					
日本の治安	<input type="radio"/>					
あなたの住む地域の経済状況	<input type="radio"/>					
あなたの住む地域の治安	<input type="radio"/>					

図5-2 グリッド形式の質問、PCで表示した場合

第5章 実践 115

## 【編集部からのコメント】

本書では「科学的なウェブ調査とは何か」について、従来の調査法との違いや問題点を踏まえてわかりやすく提示しています。そしてGoogle Formsを使った質問項目の作成例や、サーバーを立ててセルフ型ウェブ調査を実装した例まで丁寧に解説され、本書を読みながら実際に手を動かすことでウェブ調査の基本を身につけられる構成になっています。ウェブ調査で特に注意が必要なセキュリティ問題についてもページが割かれ、実用性の高い1冊です。

「イントロダクション」「第1章」の一部をnoteで試し読みできます。  
<https://note.com/keioup/n/n712cbc166567>

